

2007年11月30日(金)

名古屋大学医学部医系研究棟 B1F 会議室

1. 症例検討(1例): 三重大学より分類不能な成熟 T 細胞性リンパ腫の白血化と思われる症例が提示された。Hyper-CVAD 療法で完全寛解に達したが間もなく再発を来した。こういった症例に対する造血細胞移植の適応・時期・移植細胞ソース(骨髄か臍帯血か)に関して、議論がなされた。
2. 「NIH より提唱された新しい慢性 GVHD の診断と評価」
名古屋第一赤十字病院の榛葉誠先生より、NIH から提唱された慢性 GVHD の新しい診断および評価法(BBMT 2005)について概説していただき、NBMTG 内の数施設で試行的に行った慢性 GVHD の評価について発表があった。
3. 新規 study :
 - (1) 臍帯血ミニ移植
これまでの案に対して、①Simon の 2 step design に変更した点、②非寛解期症例を対象に含めた点、③iv BU の用量増(非寛解期移植に対応するため)の 3 点の改正点が示された。WG を作って今後検討およびプロトコール作成が行われることが合意された。
 - (2) Tacrolimus を用いた血縁 RIST
プロトコールコンセプトが提示された。症例数の設定に関して質問があがった他、下痢を発症した場合の ITAM を考慮した対応に関して議論があった。これらの点を検討しつつ、今後フルプロトコールを作成し試験開始に向けて進めることが合意された。
 - (3) 予後不良 myeloma に対するタンデム同種 RIST 移植
プロトコールコンセプト案が提示された。ハイリスク群の選定方法、前処置、bortezomib, thalidomide などの新薬の登場とどう折り合いをつけた研究とするか、についてホットな議論がなされた。今後も WG で議論を続けることが確認された。
4. 愛知県がんセンターでのマイナー抗原ワクチンの臨床試験の紹介
ハイリスクの寛解例に対する予防ワクチンの追加(変更)について、愛知県がんセンターの赤塚先生より紹介され、症例リクルートの依頼がなされた。

Hot な議論が続いたが、午後 9 時 30 分に散会となった。

予定されていた、「NBMTG におけるアンケートに基づく移植方法論：第 1 回 TBI」については、時間の都合もあるため次回に延期となった。

次回例会： 2008年1月25日(金) 名古屋大学医学部医系研究棟 B1F 会議室